

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月15日(木)

### 《イエス様からの真の休む体験 - 重荷から十字架へ -》

今日の福音(マタイ 11:28-30)の中で、二つの言葉について、皆様と話し合いたいと思います。

さあ、一つ目です。始めの部分でこのようにイエス様がおっしゃいましたね。「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。**」

この世の中に、重荷を負っていない人、疲れていない人はいるのでしょうか。錯覚してはいけないのですが、この言葉は特に疲れている人、特に重荷で圧迫されている人のことを言っているのではありません。イエス様の憐れみの目で見れば、全ての人間は重荷を負い、疲れています。また事実そうなのです。私も皆様も疲れています。死ぬ時まで疲れるのです。信者である私たちは、「休ませてあげよう」という言葉をよく知っているのに、ほとんど忘れて毎日を過ごしています。そこが、悪魔の狙いかも知れません。私たちは、誰に頼れば、誰に自分を預ければ休めるのか、知っているのです。しかし、私たちの信仰の人生の中で、どのくらい神様の内に休もうとして来たでしょうか。問題の解決方法を探すために、あちこち忙しく動いているのでしょうか。結局得られるものは何でしょうか。これは、今、信仰の生活をしている私たちにも、当てはまる話です。キリストの内にその休みを求めましょう。

二つ目です。1年か2年前、同じ個所が福音として読まれた時にも申し上げたのですが、もう一度改めてお話しします。本当に不思議な言葉があります。「**わたしのくびき 轡 を負い、わたしに学びなさい。**」

これは、「私のところへ来たら休ませてあげよう。しかしあなたのくびき 轡 をはずしてはあげない。」ということなのです。もし休ませてくださるのならば、重荷をなくしてくださればよいと思います。しかしイエス様は、「わたしのくびき 轡 を負い、わたしに学びなさい。」とはっきりおっしゃっています。これはどういう意味でしょうか。この世の中にいる限り、全ての人には十字架があります。ただ、それを十字架と受け取るか、重荷と受け取るかによって全然違ってきます。つまりイエス様がおっしゃっているのは、「あなた達が持っているいろいろな疲れ、重荷を正しい意味の十字架として負えるように教えてあげよう。」ということなのです。

皆様にも私にも十字架があります。しかし、十字架とくびき 轡・重荷は違います。十字架には意味があります。重荷は重荷でしかありません。自分を破壊する重さです。隣の人も破壊します。しかし、十字架というのは自分を救い、周りの人も救う力を持っている神秘です。そういうことを学びなさい、というイエス様の素晴らしい言葉なのです。ですから今日読まれた福音は、イエス様のみ心をまとめてはっきりと表した箇所だと思います。

次に「(わたしのもとに来なさい。わたしのくびき 轡 を負い、わたしに学びなさい。) そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしのくびき 轡 は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」と続きます。

負やすい**轆**<sup>くびき</sup>がどこにあるのでしょうか。軽い重荷では言葉になっていません。これは、「どうい  
う十字架でも、私と共に負うことが出来れば、それがあなたの救いのための十字架になることを悟り  
なさい。」という意味ではないでしょうか。

皆様、誰でもみんな十字架をはずしたいのです。はずして楽に休みたいです。しかしそれは自分だ  
けでできることでしょうか。いいえ、できません。

たとえば、今日二つの悲しい便り(2人の死)を耳にしました。その時、司祭としてどうすればよい  
のでしょうか？ 悲しさばかり、虚しさばかりを皆様に言うべきでしょうか？ いいえ、そうではあり  
ません。その悲しむべき便りにも福音が隠れています。その隠れている福音を皆様に伝えて、皆様が  
もっと元気に、もっと本格的に、もっと積極的に信仰の生活を行えるように導かなければなりません。

皆様、今日の福音をもう一回、反省しながら見てみましょう。私たちはどこに休む場所を探してい  
るのでしょうか？ 私たちの心はどこに置かれているのでしょうか？ もしかしたら、自分の一言によ  
って、人が疲れるように導いているのではないのでしょうか？ もう一回考えてみましょう。そして、  
できるだけ人を生かせる口になりましょう。人を生かせる心になりましょう。人を生かせる体になり  
ましょう。そのためには、私たちは神様・イエス様から、まことの意味の休む体験が出来なければな  
らないと思います。

ありがとうございました。